

公園内で見られる植物

写真は2月26日(日)

3月11日(土)

自然観察会で見られた植物です



ウメ (バラ科)

日本画のお目出度い題材としてよく用いられるのが、春を告げる梅と鶯です。昔から梅は日本的な趣を持ち、日本を代表する花です。しかし原産は中国中部。梅雨に、梅の字が用いられていますが、これは梅の実がなる頃に雨が多いことから用いられたとか？



セリバオウレン (キンポウゲ科)

春の音連れを告げる植物の一つですね。山地の林内に生える常緑の多年草で、根茎は太く横に走っています。漢方薬（黄連）の一種です。小葉がセリの葉の様に切れ込んでいるのが名前の由来です。



マンサク (マンサク科)

春になると『まんずさく (先ず咲く)』から訛ってマンサクになったとか、枝一杯に花を咲かせるので満作という説もあります。また、岡山県阿哲地方には萼が黄色で地名にちなんだ花の香りのよい、アテツマンサクがあります。



センダン (センダン科)

葉痕は大きく突き出て独特の形になっていますね。冬芽はほぼ球形で灰褐色の毛が密生しています。



オニグルミ (クルミ科)

側目の下部に大きな葉痕が、サルの顔に見えませんか？



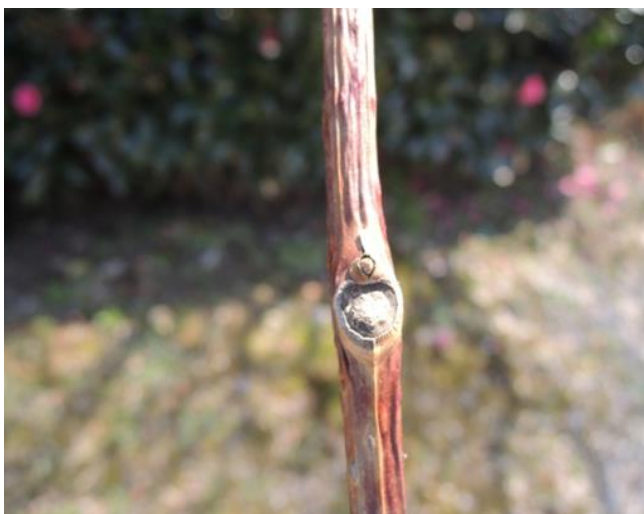
アオギリ (アオギリ科)

葉がキリに似ていて樹皮が鮮緑色なので、青桐の名があります。



クサギ (シソ科)

臭木というだけあって葉などを摘んで揉んで嗅ぐと強烈な匂いですが、悪臭とは思いません。



ノウゼンカズラ (ノウゼンカズラ科)

葉痕は丸くて大きい。上の冬芽は小さい。



アカメガシワ (トウザイグサ科)

葉痕は半円形で目立ちます。



オオバヤシャブシ (カバノキ科)

枝先に雄花序の冬芽その下に雌花序または葉の冬芽が付きます。まだ垂れ下がってなくて触るとねばねばした液が付いています。



フキノトウ (キク科)

雄花は黄色の花が多く、雌花は白い花が多い。雌花は花が終わると茎を長く伸ばします。天ぷらにして食べたらほろ苦く春の香りがしますよ。



タラノキ (ウコギ科)

トゲトゲのある木だが若芽は非常においしく山菜の王様と言われる。しかし、2番目に出た芽まで採ってしまう人が多く枯死してしまいます。山にもルールがありまよね。



カラスザンショウ (ミカン科)

葉痕は丸みのある三角形で、中に3つ、目と口に見える痕があります。上には帽子のような冬芽があります。



サンショウ (ミカン科)

葉付け根から一対の刺が付いているのが特徴です。別名「ハジカミ」と言い「ハジ」は熟した果実の皮がはぜるところにちなみ、「カミ」はニラの古名で、ニラのように辛いという意味です。ウナギの蒲焼には粉山椒は欠かせませんね。独特の香りと、舌をしびれさせるような清涼感のある辛味は、香辛料の中でもピカ一だと思えます。



ジャケツイバラ (マメ科)

刺の上に見えるのが冬芽で、写真では見えませんが、冬芽の左側(下)に葉痕があります。一番目の芽が折れると2番目の芽が伸びてきます。バラの刺のように不規則に葉柄や葉軸に逆向きに鋭く丈夫な刺が付いています。枝がもつれ合う姿がへび同士がとぐろを巻いているかのように見える事からこの名が付いたようです。



コショウノキ (ジンチョウゲ科)

1～4月、枝先に芳香のある白い花を咲かせ、6月頃赤く実が熟します。コショウの名の通りものすごく辛く有毒です。



アセビ (ツツジ科)

馬が食べると酔ったようになるので、馬酔木 (アセビ) と書いた。葉はかむと苦く、煎じて殺虫剤 (ウジ虫殺し：有毒) にしていたそうです。普通白色の花を多数付けますが、緑色や赤など変異も多いようです。



シキミ (シキミ科)

仏前に供える木として知られています。シキミの葉や樹木は、燃やすと死臭も消すほどの強い臭いを放つため、一年中線香と同じように売られているのは、その名残と考えられます。



ウグイスカグラ (スイカズラ科)

先端が5つに開いたラッパ状の小さな可愛らしい花を付けます。名前の由来は、木の実が甘く食べられるのですが、鶯が好んでついでむるので、その姿が神楽を踊っているように見える事から付いたのか？